

【研究主題】教科指導（授業）を通して「非認知能力」を育むための実践

【副題】毎回の振り返りと定期的な自己評価（分析）から、学級全体の非認知能力向上につなげる

【学校・団体名】滋賀県栗東市立栗東西中学校

【役職名・氏名】教諭 大埜 剛

### 1. はじめに

近年、「非認知能力」育成の重要性が学校現場においてもますます高くなっている。中央教育審議会初等中等教育分科会では、「非認知能力」とは主に意欲・意志・情動・社会性に関わる3つの要素（①自分の目標を目指して粘り強く取り組む、②そのためにやり方を調整し工夫する、③友達と同じ目標に向けて協力し合う。）からなるもので、特に幼児期（満4歳から5歳）に顕著な発達が見られ、学童期・思春期の発達を経て、教育を通して育成可能性があるものとしている。このことから、方法次第では思春期である中学生からでも非認知能力を高めることができるのではないかと、中学校生活の中で大半を占める「教科指導（授業）」を通して「非認知能力」を効果的に育成するためにはどうすれば良いのか、と考えたことが本研究のきっかけである。

### 2. 中山芳一先生・徳留宏紀先生に学ぶ

非認知能力の育成を目指すうえで最大のポイントは、自身が「非認知能力」をどのように理解し、どのように実践の中に落とし込むかということであった。様々な書籍やレポート、インターネット上の記事を読み重ねる中で、最もすんなりと私の心に落ちたのは岡山大学准教授である中山芳一が著した『家庭、学校、職場で生かせる！自分と相手の非認知能力を伸ばすコツ』に記された内容であった。中山は、非認知能力を大きく3つの力（①自分と向き合う力、②自分を高める力、③他者につながる力）に分け、それぞれの力を分かりやすく解説している。挙げていけば切りがないほど無数に存在する非認知能力を3つに大別するという考え方は、育成の軸がぶれることなく実践を進めていくうえでの大きなヒントとなった。また、元中学校教諭である徳留宏紀が中山との共同論文「教科学習の自立・協働型学習における非認知能力向上のための試論 - 理科教育実践に焦点を当てて - 」において示している、「大別された3つの非認知能力のそれぞれ」を同様に3つに分類した「授業で付けてほしい9つの非認知能力」（①自制心、忍耐力、俯瞰力、②向上心、自尊心、

楽観性、③敬意・尊重、受容・共感、相互理解）を授業始めに生徒に選択・意識させ、終わりに振り返りをさせることで学習時における動機づけ・意識づけ・メタ認知能力の向上につなげるという実践について、模範として自身の実践にも取り入れていくこととした。

### 3. 「学校教育目標」及び「めざす生徒像」との関連

本校の学校教育目標は「心豊かでたくましい生徒の育成」であり、めざす生徒像は「自立できる生徒（①自分を大切にできる生徒、②人を大切にできる生徒、③目標を持ち、夢に向かって進む生徒）」である。「心豊かでたくましい生徒」という抽象的な表現を「めざす生徒像」と合わせて「非認知能力」の視点から見ると、自分と向き合い、自分を高め、他者につながる力のある生徒と言い換えることができ、中山が大別した3つの力と大きく関連していることが分かる。つまり、これら3つの力を伸ばしていくことが学校教育目標の達成につながっていることもここで確認しておきたい。

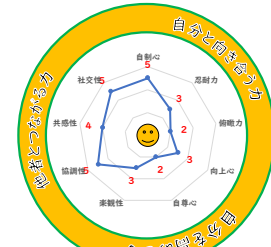
### 4. 「非認知能力の高さ」と「進学先」との関連

昨年度に授業（英語）を担当した3年生約100名には定期的に非認知能力についての自己評価をさせた。

日付	意識する力	意識する項目				今日の評価
/	自分と向き合う力	自制心	向上心	協調性	Excellent	
	自分を高める力	忍耐力	自尊心	共感性		Good
	他者につながる力	俯瞰力	楽観性	社交性		Poor

★今日の振り返りを非認知能力の視点から具体的に記入しましょう。（何ができて、何ができなかったのか）

力	項目	5段階評価	意識した回数
自分と向き合う力	自制心	5	8回
	忍耐力	3	6回
	俯瞰力	2	4回
自分を高める力	向上心	3	6回
	自尊心	2	3回
	楽観性	3	5回
他者につながる力	協調性	5	8回
	共感性	4	7回
	社交性	5	9回



Self-Reflection Chart

3つの力と9つの項目

①自己評価が高い項目について、なぜそのような結果となったのか、具体的に振り返りを記入しましょう。

他者につながる力は意識できていると思う。勉強は苦手だが、他の人に迷惑をかけないことは意識しているし、自分は嫌なことからすぐに逃げてしまうので、向上心を多く意識してみました。

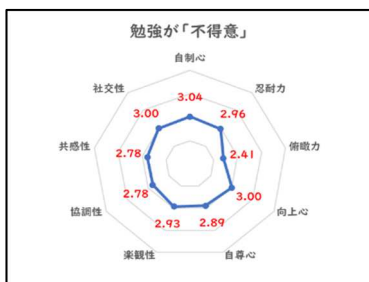
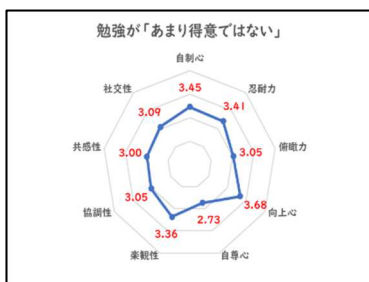
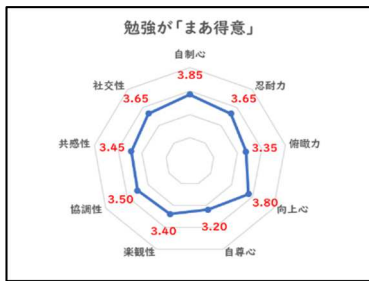
②自己評価が低い項目について、なぜそのような結果となったのか、具体的に振り返りを記入しましょう。

すぐに楽な方に逃げてしまうので、自分にあまり自信が持てなかったり、前向きにとらえることができなかったりするので、自分を高める力が低いです。今後は意識して改善していきたいです。

毎回の授業で意識・評価をしてきた「3つの力・9つの項目」の積み重ねとして、これまで項目別に意識を

して取り組んできた回数をまとめたワークシートに集計させるとともに、5段階で評価をし、評価が高い項目と低い項目についてそれぞれ、なぜそのような評価となったのかを具体的に記入させた。また、3つの力のバランスが一目で分かるよう、レーダーチャートも活用し、年間で定期的にまとめた自己評価をすることで、レーダーチャートで示される9角形を徐々に大きくしていこうという目標についても生徒と共有した。

そうした振り返りを重ねる中で、受験直前に実施した5段階の自己評価値と進学先（今回は高校に絞る）との関連を調べたところ興味深い結果が出た。進学する高校の目標偏差値を基準に示すことも可能であるが、中学校での教育において偏差値を基準に高校をランク付けすることはふさわしくないと考えるため、ここでは便宜上、勉強が得意、まあ得意、あまり得意ではない、不得意の4段階に分けて結果を示すこととする。



ることが「合格」という目標につながると考えた人が勉強の得意な生徒には多く、他者と協力しながら勉強

をした方が目標に近づくと考えた人がまあ得意な層に多かったとも言えるかもしれない。いずれにしても、非認知能力が高いほど勉強にも自信をもっている生徒が多く、進学先にも関連していることがわかり、非認知能力を伸ばすことが学力向上につながっていくであろうことを確認できたのは1つの大きな成果であった。

		得意	まあ得意	あまり得意ではない	不得意
3つの力	9つの項目	23人	20人	22人	28人
自分と向き合う力	自制心	4.09	3.85	3.45	3.04
	忍耐力	3.96	3.65	3.41	2.96
	備学力	3.39	3.35	3.05	2.41
自分を高める力	向上心	4.22	3.80	3.68	3.00
	自尊心	3.35	3.20	2.73	2.89
	楽観性	3.26	3.40	3.36	2.93
他者とつながる力	協調性	3.22	3.50	3.05	2.78
	共感性	3.35	3.45	3.00	2.78
	社交性	3.39	3.65	3.09	3.00

### 5. 昨年度の取組を生かした新たなスタイルの実践

昨年度、3年生を対象に取り組んだ「非認知能力」育成のための実践、その反省や成果を生かして、本年度は1年生を対象に新たなスタイルの実践に取り組んでいる。ここではその一連の流れについて紹介したい。

#### I. 毎回の授業の振り返り（学習の記録の記入）

学習の記録		I 年	組	番	Name	No.														
Date	Date in English	Day in English		*Today's Self Assessment ※今日の自分を評価しよう。 <table border="1"> <tr> <th>質問</th> <th>回答</th> </tr> <tr> <td>やるべきことに集中して取り組めましたか？</td> <td>Yes / No</td> </tr> <tr> <td>課題に対してあきらめずに粘り強く取り組みましたか？</td> <td>Yes / No</td> </tr> <tr> <td>自分の理解度に合わせて、計画的に取り組めましたか？</td> <td>Yes / No</td> </tr> <tr> <td>嫌いな苦手なことにも失敗を恐れず挑戦できましたか？</td> <td>Yes / No</td> </tr> <tr> <td>自分に自信をもって参加し、集団に貢献できましたか？</td> <td>Yes / No</td> </tr> <tr> <td>プラス思考で楽しみながら学ぶことができましたか？</td> <td>Yes / No</td> </tr> </table>			質問	回答	やるべきことに集中して取り組めましたか？	Yes / No	課題に対してあきらめずに粘り強く取り組みましたか？	Yes / No	自分の理解度に合わせて、計画的に取り組めましたか？	Yes / No	嫌いな苦手なことにも失敗を恐れず挑戦できましたか？	Yes / No	自分に自信をもって参加し、集団に貢献できましたか？	Yes / No	プラス思考で楽しみながら学ぶことができましたか？	Yes / No
質問	回答																			
やるべきことに集中して取り組めましたか？	Yes / No																			
課題に対してあきらめずに粘り強く取り組みましたか？	Yes / No																			
自分の理解度に合わせて、計画的に取り組めましたか？	Yes / No																			
嫌いな苦手なことにも失敗を恐れず挑戦できましたか？	Yes / No																			
自分に自信をもって参加し、集団に貢献できましたか？	Yes / No																			
プラス思考で楽しみながら学ぶことができましたか？	Yes / No																			
*Today's Target ※黒板を見て、今日の授業のねらいを書き写す。																				
*Today's Review ※今日の振り返りを書こう。感想や学んだことなど。 検印																				
<table border="1"> <tr> <td>全員の学びやすい環境をつくることができましたか？</td> <td>Yes / No</td> </tr> <tr> <td>困っている人に声をかけて、助けることができましたか？</td> <td>Yes / No</td> </tr> <tr> <td>自ら声をかけて3:1:1のコミュニケーションをとることができましたか？</td> <td>Yes / No</td> </tr> </table>							全員の学びやすい環境をつくることができましたか？	Yes / No	困っている人に声をかけて、助けることができましたか？	Yes / No	自ら声をかけて3:1:1のコミュニケーションをとることができましたか？	Yes / No								
全員の学びやすい環境をつくることができましたか？	Yes / No																			
困っている人に声をかけて、助けることができましたか？	Yes / No																			
自ら声をかけて3:1:1のコミュニケーションをとることができましたか？	Yes / No																			

毎授業の終わりに生徒は非認知能力の視点から振り返りを行っている。意識して行動できたかできなかったかを毎回振り返らせることで、何を意識しながら授業に臨まなければいけないのかを浸透させることがねらいである。振り返りの質問については、1年生でも理解ができるように言葉を選んだ。また、授業中における生徒の発言や行動を積極的にキャッチして、「今の発言や行動はこの力のこの項目につながっている。」ということを意識的に伝えるようにすることも心がけた。

*毎日の振り返りがどんな力につながっているのかを知らう		9つの項目	意識して身に付けた3つの力
① やるべきことに集中して取り組めましたか？	→	自制心	自分と向き合う力
② 課題に対してあきらめずに粘り強く取り組みましたか？	→	忍耐力	
③ 自分の理解度に合わせて、計画的に取り組めましたか？	→	備学力	
④ 嫌いな苦手なことにも失敗を恐れず挑戦できましたか？	→	向上心	自分を高める力
⑤ 自分に自信をもって参加し、集団に貢献できましたか？	→	自尊心	
⑥ プラス思考で楽しみながら学ぶことができましたか？	→	楽観性	他者とつながる力
⑦ 全員が学びやすい環境をつくることができましたか？	→	協調性	
⑧ 困っている人に声をかけて、助けることができましたか？	→	共感性	
⑨ 自ら声をかけて3:1:1のコミュニケーションをとることができましたか？	→	社交性	

例えば、I like an apple. と I like apples. は何が違うのかという質問をした生徒に対して、その質問が集団に貢献するものであることを伝え、その生徒の自尊心を高めるとともに、その質問に対する答えをグループで調べさせ、発表し合うことで学級全体の「他者とつながる力」の育成につなげるといった具合である。

## II. 定期的な自己評価と自己分析 (2ヵ月に1度)

このための準備をすすめるために必要な「非認知能力」向上のための振り返りシート

1	年	組	番	氏名
1	やるべきことを優先して取り組めたか?	自制心	<b>実践して身につけた力</b> <b>自分と向き合う力</b> <b>自分を高める力</b> <b>他者とつながる力</b>	
2	困難に挑戦してあきらめずに取り組めたか?	忍耐力		
3	自分の課題に合わせて、計画通りに取り組めたか?	俯瞰力		
4	悔い、苦しみにも勇気を持って取り組めたか?	向上心		
5	自分に自信をもって参加し、意欲的に貢献できたか?	自尊心		
6	プラス思考で楽しみながら学ぶことができたか?	楽観性		
7	全員が学びやすい環境をつくることができたか?	協調性		
8	困っている人を見て、助けを求めたか?	共感性		
9	自分の声をかきこられることができたか?	社交性		

自制心	忍耐力	俯瞰力
自制心とは、自分のやるべきことを優先して取り組むこと。周囲の状況や自分の体調を考慮し、計画通りに行動すること。	忍耐力とは、困難な状況や苦しみにもあきらめず、最後までやり遂げる力。目標達成のために必要な力。	俯瞰力とは、自分の課題や状況を客観的に見ることができ、優先順位をつけて取り組む力。大局観を持つこと。

向上心	自尊心	楽観性
向上心とは、自分の課題や目標に向かって積極的に取り組むこと。困難に挑戦し、成長を続ける力。	自尊心とは、自分に自信を持ち、積極的に参加し、貢献すること。自分の価値を認め、誇りを持つこと。	楽観性とは、困難な状況や苦しみにもプラス思考で向き合い、前向きに行動すること。希望を持って取り組む力。

協調性	共感性	社交性
協調性とは、全員が学びやすい環境をつくること。相手の立場を理解し、協力して取り組む力。	共感性とは、困っている人を見て、その気持ちや立場を理解し、助けを求めたり提供したりすること。	社交性とは、自分の声をかきこられること。積極的に発言し、意見を述べ、コミュニケーションをとる力。

振り返りシート(5段階) 自己評価(5段階)

振り返りシート(5段階) 自己評価(5段階)

振り返りシート(5段階) 自己評価(5段階)

中学1年生の英語の授業は週に4回の設定で行われるため、毎回学習の記録をつけていくと、2ヵ月で30回程度の振り返りをするようになる。おおよそそのタイミングで一度、まとめを実施し、5段階の自己評価に加えて、評価が高い項目と評価が低い項目に対して自己分析をさせることとした。実際の生徒の振り返りを紹介すると、他者につながる力の評価が高く、自分と向き合う力の評価が低いある生徒は、それぞれに対して「音読をしてサインをもらおうときに、普段あまり話さない人を誘って交流できていると思ったから。またその人に積極的に交流ができたと思うから。」「難しい問題はやる気が出ないから、周りの人に教えてもらったり答えを見てしまったりするから。できていなくてもいいから、次はあきらめずに少しずつ解くようにがんばる。」といった自己分析をしている。

◎自己評価が高い項目について、なぜそのような結果となったのか、具体的に振り返りを記入しましょう。

音読をして、サインをもらおうときに、ふたつあまりしゃべらない人を誘って、交流をできていると思った。またその人に積極的に交流ができたと思うから。

◎自己評価が低い項目について、なぜそのような結果となったのか、具体的に振り返りを記入しましょう。

むずかしい問題はやる気が出ないから、周りの人に教えてもらったり答えを見てしまったりするから。できていなくてもいいから、次はあきらめずに少しずつ解くようにがんばる。

なぜ自己評価が高く、なぜ自己評価が低いのかという理由を生徒自身の言葉で的確に表現しており、評価が

低い項目に対しても「次はがんばる」という前向きな記述があることは1つの成果であると言えるだろう。

## III. 個々の評価・分析を基にした学級の振り返り



学級全体の学ぶ力向上につなげていくためには、個々の分析を基に学級全体の現状を客観的に知ることが不可欠である。そこで、9つの項目に対する個々の5段階評価の平均値を算出して、1位から9位

までのランキング形式にまとめて生徒に配布することにした。また、それぞれの項目に対する生徒の記述を抜粋して掲載することで、今後の振り返りの質を高めたい。さらに、学級の平均値が示すレーダーチャートを作成することで、昨年度の実践と同様、年間を通して9角形を大きくしていくという視覚的にも分かりやすい目標を共通理解することとした。

(昨年度は個々の評価だけで、学級の平均値を示すことはなかったが、本年度は学級全体の学ぶ力向上につなげることを目標としているため、学級全体の現状を示して生徒全員に配布することを新たに取り入れた。)本年度担当の3学級でも、ランキングや9角形の大きさが違い、結果が各学級の特色をよく表しているように感じる。各学級の強みや弱みを知ったうえで授業を展開し、よい結果につながるよう努めていきたい。

【学級全体の振り返り①】2023年5月24日

	1年1組		1年4組		1年6組	
	平均値	順位	平均値	順位	平均値	順位
自制心	3.45	1	3.96	3	3.68	4
忍耐力	3.42	2	3.64	5	3.52	6
俯瞰力	3.26	6	3.54	6	3.26	8
向上心	3.29	4	3.25	8	3.68	4
自尊心	2.39	9	3.04	9	3.00	9
楽観性	3.42	2	4.07	1	3.81	2
協調性	3.29	4	3.82	4	3.74	3
共感性	2.84	8	3.50	7	3.42	7
社交性	3.19	7	4.00	2	3.84	1

#### IV. 学級の現状を基にした各学級での話し合い

**振り返り終わらせない、次(成長)につなげることに意味がある!**

★この表をすべて、1枚の紙の方を伸ばしていくために必要なところを線で囲み、発想してください。(※得意な書体・書き方を求めません)

◎前回の授業を通して、「自分と向き合う力」を伸ばしていくためには何が必要だと思いますか?  
自信心、忍耐性、備前性

- ・無駄な話をせずに、授業に集中する。 / ・自分のできていないところを把握して計画的に復習する。
- ・嫌いなことや苦手なことを後回しにしない。後回しにしたときはいつやるかをきちんと決めておく。
- ・後戻りすることを恐れず、失敗しても恥ずかしくなくにつなげる。そのために周りの環境も重要。
- ・成長を実感するためにも、問題をどんどん解いて、できたという経験がたくさんあればいいと思う。
- ・自分に合う勉強方法を見つける。そのためにいろいろな人と交流してよいところを真似することも大事。

◎前回の授業を通して、「自分を高める力」を伸ばしていくためには何が必要だと思いますか?  
向上心、自尊心、素直性

- ・間違えをこわがらずに、積極的に質問をする。 / ・発言した人に対して拍手をする。共感が大事。
- ・目標をきちんとつづけて、達成できるように努力する。 / ・失敗しても大丈夫という雰囲気をつくる。
- ・一生懸命、授業を聞いて勉強を家のように努力する。 / ・発表ががんばって自信をつける。
- ・他人は他人、自分は自分だから、自分の良いところを褒めて、集団に貢献できるようにする。
- ・自分からいい部分をおおげさに、質問したり聞いたりする。(コミュニケーションもとれて一石二鳥)

◎前回の授業を通して、「他者とつながる力」を伸ばしていくためには何が必要だと思いますか?  
協調性、共感性、社交性

- ・音読のとき、自分から声かけがけについて、コミュニケーションを取るようにする。 / ・素直に聞く。
- ・音読のときやペア活動のとき、男女関係なくしゃべりかける。 / ・きんりアクション(反応)する。
- ・困った時は一緒に考えて、難しい問題にもチャレンジする。答を教えるのではなく一緒に考えるのが大事。
- ・拍手が分りやすいように説明をして、寄り添ってあげる。 / ・いろいろな人と考えを分かち合う。
- ・その場、その場で、けいめをつけることを全員で呼びかけ、全員でお互いの良いところを受け入れる。

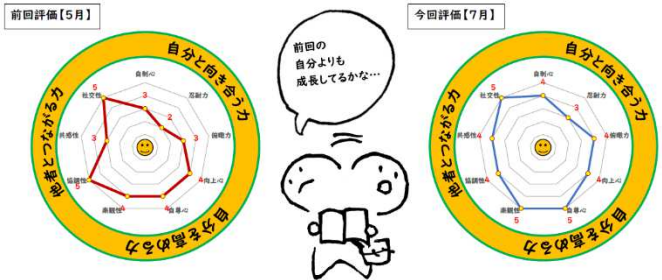
学級全体の現状を把握し、それで終わりでは意味がない。大切なことは、その現状をどう次につなげていくのかをきちんと話し合い、共有し、行動することである。これを繰り返すことで、少しずつでも成長することができ、各学級の9角形が大きくなることで視覚的にも成果が見えやすくなる。そのことは学級全体の自信につながるだけでなく、生徒個々がそれぞれに非認知能力を高められたという自己肯定感にもつながっていくだろう。

#### V. 学期末の自己評価・自己分析・成長の振り返り

学期末には前回の自己評価を基にテスト期間中の取り組み方や実際の点数も参考とし、今回はどのような評価をつけるのか、どれくらい成長できたのかを振り返らせた。前回と比べて「高くなった」「変わらなかった」「低くなった」項目について、なぜその結果になったのかを具体的に書かせることで生徒は自身の成長や課題を実感できた様子であった。仲間と次に向けての決意を語り合う様子も見られ、学級全体で力を伸ばしていこうという雰囲気が作られた貴重な時間となった。

者に伸ばしたい項目	自分と向き合う力			自分を高める力			他者とつながる力			参考 平均値
	自信心	忍耐性	備前性	向上心	自尊心	素直性	協調性	共感性	社交性	
4月-5月	3	2	3	4	4	4	5	3	5	3.7
テスト期間	4	3	4	3	4	5	5	5	4	4.1
6月-7月	4	3	4	4	5	5	4	4	5	4.2

※1回定期テスト 知識・技能 51 思考・判断・表現 42 合計得点 93 68.0



◎前回の評価と比べて、「高くなった」もしくは「5」の項目について、なぜそのような結果となったのか、具体的に振り返りを記入しましょう。

高くなる部分に関しては、これとこの2ヶ月間を元気で乗り越え、テスト期間も乗り越えました。向上心は、失敗しても度いし、と反省して3週間ほど、思考に考えられるようになったので。

◎前回の評価と比べて、「変わらなかった」もしくは「3」の項目について、なぜそのような結果となったのか、具体的に振り返りを記入しましょう。

変わらなかった部分に関しては、悪く言えば、成長していない事になるけれど、5の事は、毎回全力を尽くしてと反省して、4の事は、前回は乗り越えていた。

◎前回の評価と比べて、「低くなった」もしくは「2」「1」の項目について、なぜそのような結果となったのか、具体的に振り返りを記入しましょう。

低くなってしまった部分に関しては、前回は乗り越えていたけれど、今回は乗り越えられなかった。だから、反省して、次回からは乗り越えようと思ったので。

参考：生徒記述例①

◎前回の評価と比べて、「高くなった」もしくは「5」の項目について、なぜそのような結果となったのか、具体的に振り返りを記入しましょう。

他者につながる力が高くなりました。相手の練習回数も増やすことで、自信を押し出すことが出来るようになったからです。また、がんばること、制作をしり、練習が楽しくなりました。

◎前回の評価と比べて、「変わらなかった」もしくは「3」の項目について、なぜそのような結果となったのか、具体的に振り返りを記入しましょう。

自信心、忍耐性が、前と変わっていません。集中していた作業と、休みの日をとりやすかったり、計画的に、こなすこと、と、練習が楽しくなりました。

◎前回の評価と比べて、「低くなった」もしくは「2」「1」の項目について、なぜそのような結果となったのか、具体的に振り返りを記入しましょう。

自信が高まる力、他の項目と比べて、低いのは、勉強の仕方環境が、便利にならず、がんばること、しなやかになり、ながらで乗り越えていたからです。目標が低いためです。

参考：生徒記述例②

また、記述例のように振り返りの質が上がっており、非認知能力の視点から見た成果や課題を生徒自身がきちんと把握できるようになってきたことで、学級全体の評価平均も5月と7月の比較で顕著に上昇していることが下の表から読み取れる。特に「自尊心」や「自制心」の項目で上昇の割合が高く、自信をもって授業に参加し、やるべきことに集中して取り組める生徒が増えてきたことは大きな成果であった。今後も推移を見守るとともに、さらなる成長につなげていきたい。

【学級全体の振り返り②】2023年7月13日(5月との比較)

	1年1組			1年4組			1年6組		
	5月平均	7月平均	増減	5月評価	7月評価	増減	5月評価	7月評価	増減
自制心	3.45	4.08	+0.63	3.96	4.43	+0.47	3.68	4.23	+0.55
忍耐性	3.42	3.96	+0.54	3.64	4.10	+0.46	3.52	4.00	+0.48
備前性	3.26	3.56	+0.30	3.54	3.90	+0.36	3.26	3.42	+0.16
向上心	3.29	3.60	+0.31	3.25	3.97	+0.72	3.68	3.90	+0.22
自尊心	2.39	3.20	+0.81	3.04	3.80	+0.76	3.00	3.71	+0.71
素直性	3.42	3.84	+0.42	4.07	4.23	+0.16	3.81	3.97	+0.16
協調性	3.29	3.88	+0.59	3.82	3.73	-0.09	3.74	4.06	+0.32
共感性	2.84	3.24	+0.40	3.50	3.77	+0.27	3.42	3.77	+0.35
社交性	3.19	3.60	+0.41	4.00	4.33	+0.33	3.84	4.19	+0.35

#### 6. 終わりに(現時点での成果と今後の展望)

昨年度は個々の非認知能力向上を主として行い、本年度はそれを学級全体に広げようと努めている。1学期終了時点でも成果は出ており、各個人、各学級の非認知能力は徐々に高まっている。今後は私が担当する学級、また、担当教科である英語以外の授業においても、毎回の振り返りや定期的な自己評価(分析)から学級全体の非認知能力向上につなげる取り組みが進んでいこう、教員の輪を広げていきたい。また、最終的には学校全体として非認知能力の向上に取り組み、学校教育目標の「心豊かでたくましい生徒」を育成し、社会で活躍できる人材を輩出できるように尽力したい。

#### 参考文献

1. 中山 芳一 (2020)「家庭、学校、職場で生かせる！自分と相手の非認知能力を伸ばすコツ」 東京書籍
2. 岡山大学全学教育・学生支援機構教育研究紀要第6号(2021) 教科学習の自立・協働型学習における非認知能力向上のための試論—理科教育実践に焦点を当てて— 中山 芳一 徳留 宏紀